

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	てあてるの芽 大阪港		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 18日		2025年 2月 8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2025年 1月 15日		2025年 1月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間での連携、役割がきっちり決まっているので共通認識をしっかりと持っている。	カンファレンス等以外の時間でも勤務中は常に利用児について職員間で共有している。 事業所独自のリーダー制度を取り入れ職員1人1人役割を意識して円滑に業務を進めている。	今後は保育所や小学校、他施設ともより連携をはかり外部とも共通認識をしっかりとっていく。
2	有資格者が多く、専門的な支援内容が充実している。 困りごとに応じた1人1人に合った支援ができる。	困りごとについて職員全員で様々な視点からアプローチしている。	法人グループが大きいので他事業所の職員とも連携を図りよりよい支援へと繋げていく。
3	SSTや外出、食育等様々なイベントを通して楽しみながら支援している。	外出・クッキング・サイエンス・ルールのある遊び等毎月バランスよくイベントを計画し実施している。	今後保護者を含めたイベントを開催したい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ドライバーの人数をもう少し増やしていきたい	ドライバーにも子どもと関わるスキルを高い基準で求めている為	常に求人を出して募集はしている。
2	施設の広さは、ゆったりとした空間を提供する大きなメリットがある反面、目が行き届きにくくなる可能性がある。	ブレイルームの面積が広い。	視界が遮らないような空間作りやスタッフの効果的な配置を通じて、広い施設を最大限に活かしながら、細かなサポートを提供できるように意識して取り組んでいる。
3	災害時に施設の場所の関係で、お子様の受け渡しがスムーズに行きにくい可能性がある。	港区の中心地から離れた場所に立地している為。	災害時のマニュアルや避難場所を定期的に保護者にも共有することで、安全意識を高める。